

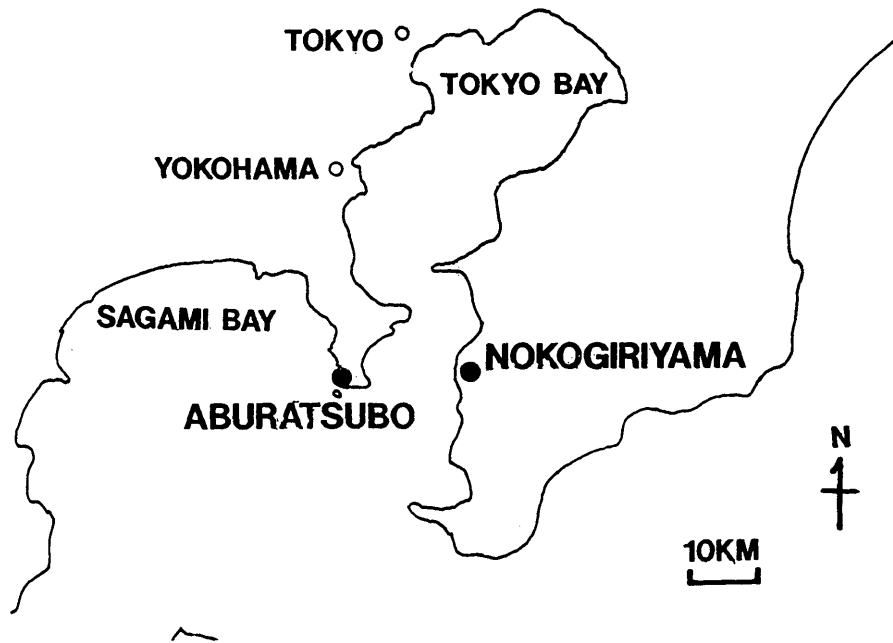
### 3-9 鋸山観測所移転に伴う並行観測結果 (1992年10月～1993年9月)

**Results of comparison observation in the Nokogiriyama Crustal Movement Observatory in the period from October, 1992 to September, 1993.**

東京大学地震研究所 地殻変動研究部門

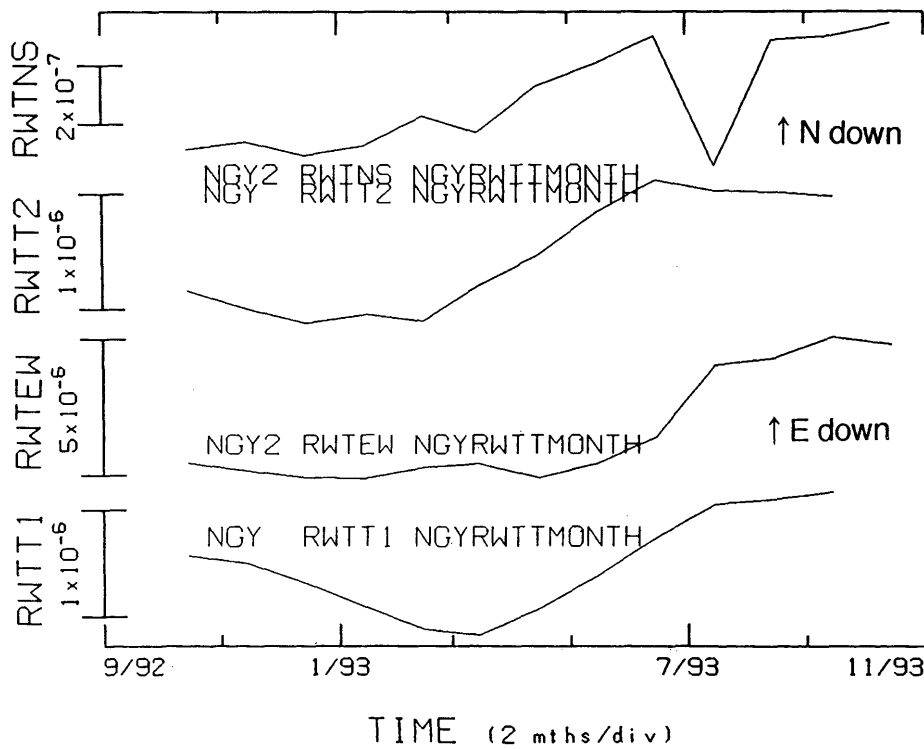
Earthquake Research Institute, the University of Tokyo

高規格127号富津館山道路の建設に伴い1959年より観測を行ってきた観測坑での観測が困難となるため、観測坑を南南西約1kmの位置に移動することとなった。移転に伴い1992年10月より1年間の並行観測が行なわれた。当観測所では水晶管伸縮計39成分、水管傾斜計4成分をはじめ、温度変化、雨量、気圧変化などの観測を行なっているが、ここでは水晶管伸縮計3成分、フロート式水管傾斜計2成分と読取式水管傾斜計2成分の新旧観測坑での観測結果の比較を試みる。第1図は鋸山観測所の位置を示している。第2図に読取式水管傾斜計の月平均値のデータを示す。旧観測坑では1週間に1度、新観測坑は並行観測期間中は1日2回の読み取りが行なわれた。この両者を比較するために月平均値を用いた。傾斜方向は両成分とも一致しているが、大きさは新観測坑で観測された傾斜変化の方が約5倍程度大きい。第3図は観測坑内の計器の配置を示している。両観測坑で観測された歪・傾斜変化の日平均値と1時間値を第4図に示す。新観測坑で観測されたデータには降雨の影響と考えられる変化が見られる。特に東西方向の観測値に大きく現われる。また、新観測坑のデータの方が潮汐変化が旧観測坑で観測される振幅よりも約3倍から9倍大きい。



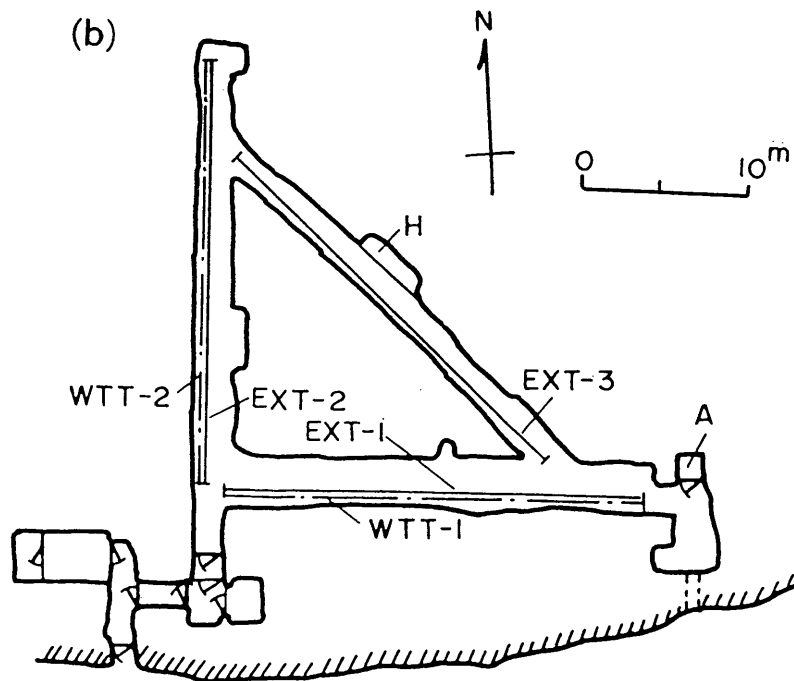
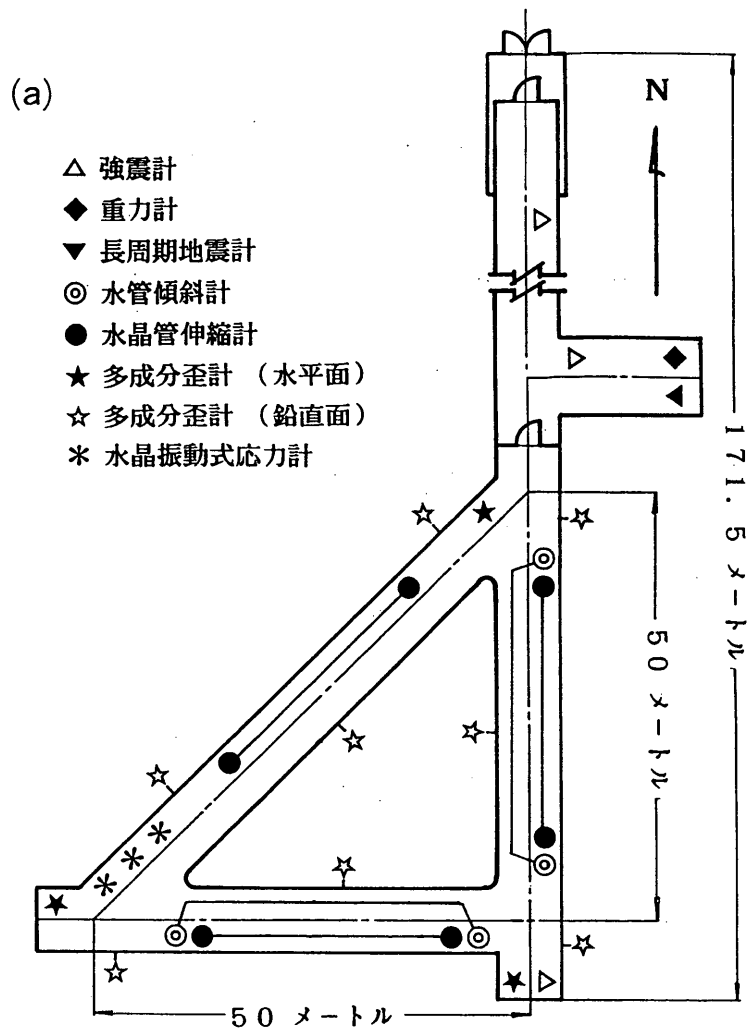
第1図 観測点位置図

Fig.1 Location map.



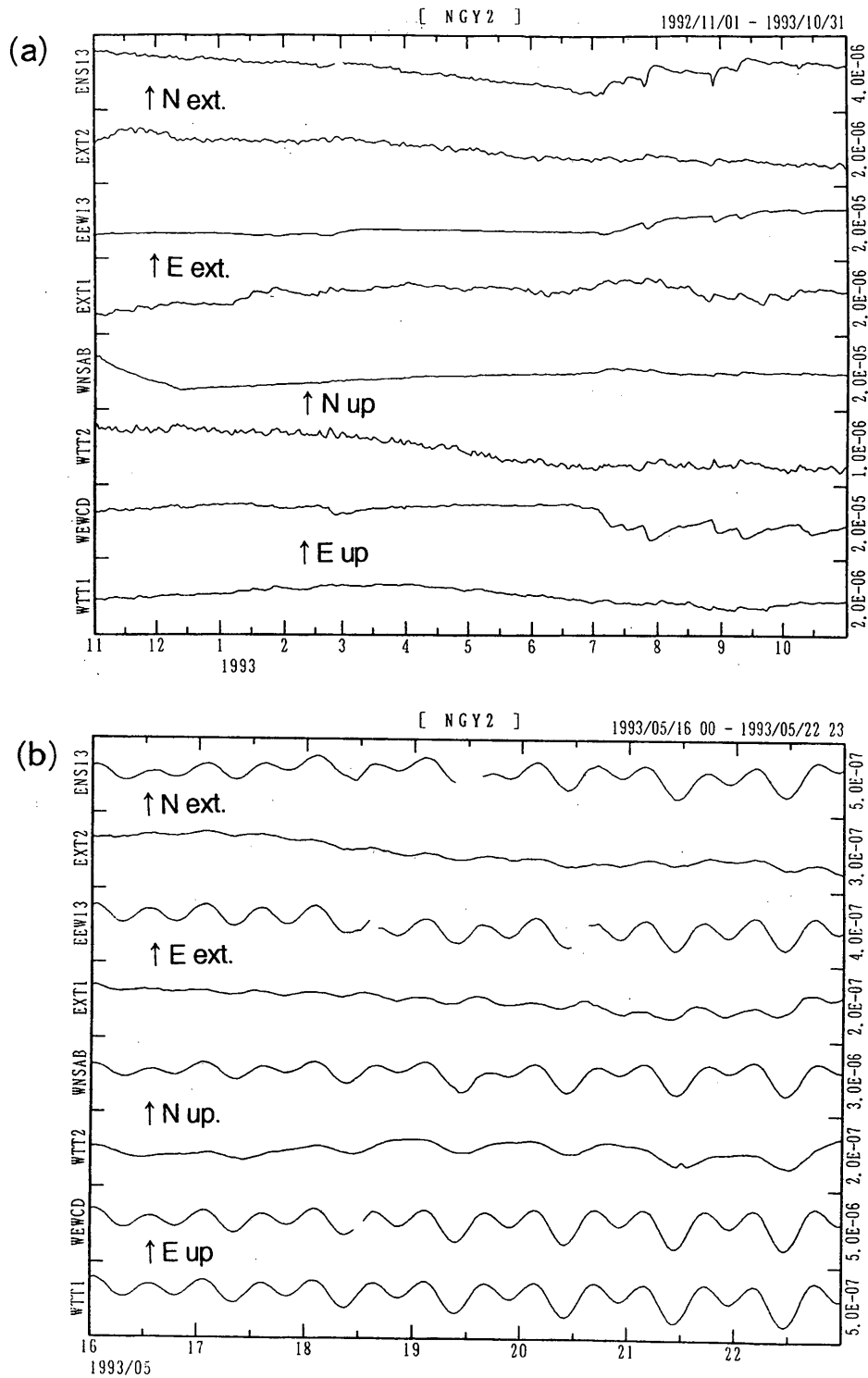
第2図 読み取り式水管傾斜計月平均値データ。新観測所データは1992年10月19日観測開始。旧観測所データは1993年10月11日観測終了。

Fig.2 Tilt data (monthly average) observed by reading type water-tube tiltmeters. Observation started in October 19, 1992 at the new vault. At the old vault observation stopped in October 11, 1993.



第3図 新旧観測坑内の観測計器配置図。(a)新観測坑。(b)旧観測坑。

Fig.3 Plan view of the vaults. (a) New vault. (b) Old vault.



第4図 伸縮計データ, 傾斜計データの比較。ENS13, EEW13, WNSAB, WEWCD は新観測坑の, EXT1, EXT2, WTT1, WTT2 は旧観測坑の成分を示す。(a): 日平均値1992年11月～1993年10月。(b): 時間値1993年5月16日～1993年5月22日。

Fig.4 Comparison between data observed in the new and the old vault. ENS13, EEW13, WNSAB and WEWCD indicate strain and tilt component in the new vault. EXT1, EXT2, WTT1 and WTT2, in the old vault. (a): daily average data observed in the period from November, 1992 to October, 1993. (b): Hourly data observed in the period from May 16, 1993 to May 22, 1993.